

第7期横浜市子ども・子育て会議 第4回保育・教育部会 公開議事会議録		
日 時	令和7年7月25日(金) 18時00分～19時05分	
開催場所	市役所18階 みなと6・7会議室	
出席者	石井部会長、稲田委員、大澤委員、尾木委員、斉田委員、清水委員、高杉委員、森委員、山瀬副部会長	
欠席者	大庭委員	
開催形態	公開	
議 題	<p>議事<公開案件></p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>(1) 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について(令和6年度分)</p> <p>報告<公開案件></p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>(2) (仮称)よこはま☆一時預かり充実パッケージの実施について</p>	
議 事	<p>石井部会長</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p> <p>稲田委員</p> <p>事務局</p>	<p>議事(1) 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について(令和6年度分)事務局から説明をお願いします。</p> <p>資料に沿って説明。</p> <p>それでは、ただいまの事務局の説明について質問や意見がございましたらお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。すごく初歩的なところで申し訳ないのですが、有効性というところの指標について教えていただきたいんですが、2点ありまして、市民生活の向上のところというのは、どういふふうに測っていらっしゃるのかなというところで、アンケート結果だけなのか、アンケートは定量的に分析できないところを定性的に補完するものという説明だったので、定量的な分析もされているのかというところなんです。なぜそこが気になったのかというと、去年の点検・評価の結果を見ますと、評価がSとAと混じっているところだったんですけども、同じ事業でもSからAに落ちていっているところがあるなど見えまして、それがどうしてなのかなというところもあってお聞きしました。よろしくをお願いします。</p> <p>進捗状況については、100%ならA、90%未満ならBといった形で比較的単純明快に表せるものですが、有効性については、数字だけでは表せない部分を評価したいというものであるため、主観的な要素も入ってきます。市民生活を向上させることができた、あるいはできていないというのも明確な基準があるわけではなく、各事業を所管している担当が、利用者や事業者の皆様からの意見・評価も含めたような形</p>

		<p>で評価しますが、おっしゃるとおり、かなり主観的な部分もあります。同じような状況でもSかなと思う場合もあつたり、Aかなと思うこともあつたり、そこは少し曖昧な部分はあります。この評価はどうしたらいいのかなというのは我々も課題だと思っておりまして、第3期のわくわくプランにおける来年度以降の点検・評価について、またこれは別の機会でご議論をいただきますが、どうしたらいいのかというところは考えているところです。</p>
稲田委員		<p>ありがとうございます。担当の方が、まずはこうかなというふうに思って、それをベースに考えられるという理解でよろしかったですか。</p>
事務局		<p>そうですね、担当者が利用者の皆様からの評価も踏まえた上でまずは評価をつけ、皆様に御議論をいただいて、違うのではないのということがあれば修正するという流れになります。</p>
稲田委員		<p>そうすると、担当者の方が、去年はSだったけれども、今年はAに落ちたなというふうに評価したという話になってしまいます。</p>
事務局		<p>評価によってSからAに落としたところはあるのですが、主体的な有効性という点では、昨年から落ちているというものでは考えておりません。全体を見る中で、かなり突出したものがやはりSというところがあるので、全体のバランスを見させていただいている中で、Aに統一させていただいたというところになります。</p>
稲田委員		<p>ありがとうございます。去年はSが結構あつたなというところから、今年はAになってしまって、しかも、言ってしまうと全部Aみたいなものだ、あまり指標として生きていない感じがするところがあつてお尋ねしたのですが、以上です。ありがとうございました。</p>
石井部会長		<p>こういう5段階でとか、例えばさっきあつた定量的に9割を超えているからSとか、そういうのは文言でどこかに入るのでしたっけ。この表には書いていないから分かりづらいということかなと思って。</p>
事務局		<p>進捗状況のほうは、おっしゃるとおりまさに数字だけで評価するのですが、有効性のほうは数字では表せない部分をということです。</p>
事務局		<p>資料としては3ページの下の部分の点検・評価の方法というのが3番にあると思います。そこの(2)に有効性の評価基準が書いてあるかと思えます。Sの場合は、市民生活等を向上させることができ、利用者、事業者からの評価が高いというところがあるのですが、ここがどうしても主観的になってしまうというところはありますので、どう統一していくかというところは少し整理をさせていただければと考えております。</p>
石井部会長		<p>なるほど、見落とししていました。進捗状況は4段階だけれども、有効性は3段階とかというのでも考えられますよね。その辺は分かりやすい指標の作成が求められるかなというところで、継続的に御検討いた</p>

	<p>斉田委員</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p> <p>事務局</p>	<p>できればというところでいいかと思います。</p> <p>個別のことを言ってもいいのですよね。このCは少し厳しいのではないかと。</p> <p>5ページの指標の進捗のところ、2番の園内研修リーダー育成研修を受講した園の割合がB評価ということになっていますが、目標に達しなかった要因をどのように分析をして次期計画に反映をしようと考えておられるのかお聞きします。</p> <p>御質問をいただきました園内研修リーダー育成研修の受講割合についてですが、計画を策定した平成30年度、令和元年度の際には、園内研修リーダーの受講者を増やしていく想定をして目標値を設定しましたが、その後、皆様も御存じのとおりコロナ禍に入りまして、会場の開催からオンライン研修に開催方法を変更しています。こちらのリーダー育成研修は5回で1コースの往還型という形で実施をしている研修ですが、研修で学んだものを受講された受講者の先生たちがチャレンジテーマを決めて、園に帰って実践をしたら、また同じメンバーとグループワークをしながら振り返りをして、また次の園の実践につなげるという形の5回で1コースの研修の内容になります。グループワークをZoom等で実施をするというところで、どうしても受講者数に限りがあったため、当初想定していた受講者数よりは伸びが見込めなかったというところで、残念ながら40%にとどまったというような状況になりました。</p> <p>こちらの研修自体は、受講された方には大変好評で、各園での実践が充実をしたり、また、それを横展開していただいたりというところで好評ですので、この研修をベースにしながら、各園での保育の実践を充実させていきたいと思っていますが、第3期の子ども・子育て支援事業計画のこちらの指標につきましては、昨年度の部会で御議論いただきましたとおり、研修を受講した園の数というよりは、各園での実践のほうを振り返りのアンケートをもって質のほうを数値化しながら、各園での取組を指標としていくというような形で見直しをさせていただきましたので、これまで取り組んできた質の向上に資する事業や研修などを充実させていながら、各園での実践を充実させていきたいと思っています。</p> <p>斉田委員、もしかしたら、すごくいい研修メニューなのに、何で4割しか出てこないのというところなのかなと聞いていて思いました。</p> <p>すみません、言葉が足りなかったのですが、1つの研修で、今、定員が56名で実施をしています。すごく好評で、定員を超えてお申込みをいただいておりますが、研修の講師の方とお話をすると、56名ぐらいまでが限度かなというところで、実施方法としては少しミニマムで</p>
--	--	--

	<p>石井部会長 事務局 尾木委員</p>	<p>すが、しっかり丁寧に研修をしていくというような形のスタイルでやっています。こちらの研修を受講された方が、さらに各園での実践を広げていったり、また、他園に働きかけをしながら、それぞれの園の園内研修や学びの機会を深めていただくということで、令和5年度にはYサポ事業というのも実施をしておりますので、そういったほかの事業とも絡ませながら、園内研修リーダー研修をベースにしながら、各園での園内研修や質の向上などに努めていきたいと思っています。</p> <p>56と言わずに、もっと80とか90とかを受けてくれればいいですね。またそこも含めてしっかりやっていきたいと思っています。</p> <p>例えば延長保育とか一時保育、一時預かりなどの利用人数が計画数値になっている場合にCとかBの評価があるのですが、ここは、利用を希望する人たちの数がこの数なのだと、これ以上伸ばす必要は恐らくないと思うのですね。ですので、今回の進捗状況の評価でやるとこうなると思うのですが、希望したにもかかわらず利用できなかった人がいるのかいないのかとか、延長保育に関しても、もうちょっと長い時間を希望している人がどのぐらいいるのかとか、その辺の指標が一緒に入ってこない、これを計画どおりにどんどん増やしましょうという話ではないのではないかなと思いましたが、今後の進捗状況の評価のときに、利用できない人がいるかないかみたいなのところも見ていく必要があるのかなと思いました。</p>
	<p>石井部会長 事務局</p>	<p>コメントはございますでしょうか。むしろ減ったらいいかもしいですね。</p> <p>こちらにつきまして、やはりコロナ禍というのが大きく働き方を変える転換になったと考えております。延長保育や一時保育のニーズについては、自宅で働いているのでそこまで使わなくていいとか、通勤時間が短くなったとか、やはり日頃から家にいることが増えたといったことで減っているものと認識しています。ですので、第2期計画ではこのような計画と結果となりましたが、第3期のわくわくプランにつきましては、現在のトレンドを踏まえた上での計画策定となっておりますので、来年度以降のこちらの結果につきましては、また異なった形で出てくると思います。実際に利用したいというニーズが減っているということで各施設からは聞いております。徐々に戻りつつありますが、戻り幅を見ても、従来のこの数字にはならないとこちらでは認識をしております。</p>
	<p>清水委員</p>	<p>ありがとうございます。私も全く尾木委員と同じことを考えていまして、主語が子育ての保護者目線の指標なのかなと思っていたのです。これだけ数が減ったということは、子どもにとってはプラスだから、みんなSにしてほしいなと思って見ていました。コロナで大きく変わ</p>

		<p>ったというのもありますけれども、それを機に社会が子育てする家庭を応援するようになったと私は理解したいと思っていて、その風土をもっと大きくすることが、こどもにとって乳幼児期は大事な時期を幸せに家庭で大事な時間を過ごす、小さい子がいる家庭は、夕飯は一緒に食べましょうねとかというメッセージを出すとか、そんなふうにしていく社会にもう少し御協力くださいとやっていくことが、こども・子育て支援としてのこどもも入れた支援の一つなのではないかなと感じます。</p>
	石井部会長	<p>僕も同感です。時短勤務制度とか育休とかの制度が充実した結果なのかなとも思うので、Cではなくてもいいのかなという気はします。</p>
	清水委員	<p>Sにしましょう。</p>
	石井部会長	<p>Sの根拠も難しい。分からないですけども、Bぐらいとか、Cではないような気がします。</p>
	稲田委員	<p>その意味だと、有効性のところの文言が市民生活等となっていて、あまりこどもの視点がある感じがしない。こどももちろん市民なのですが、やや親目線が強いなという感じなので、ここの文言から変えると評価の全体的なマインドが変わるかもと思いました。</p>
	石井部会長	<p>ありがとうございます。御検討いただいて、これはしゃくし定規にCでなくてもいいのではないのというのが部会の意見だと思いました。</p>
	森委員	<p>進捗状況で、「推定事業量が『推進』等により、進捗率が把握できないものについては、個別に評価します」とありまして、22番の障害のある子ども等へのというところもそうなのですが、実施というのは、ここの部分は加配の予算なりがついたというものをもって実施になっているという解釈でよろしいでしょうか。</p>
	事務局	<p>また、7番の保育・教育施設等に対する運営指導の実施は推進になっていて、その違いも教えていただけますでしょうか。</p>
	事務局	<p>障害児保育の部分についてお話をさせていただきたいと思います。御質問いただきまして、ありがとうございます。</p>
		<p>ここにつきましては、想定事業量が、障害のあるお子様の入所の数とかそういうことではなくて、必要な方がしっかり保育の利用につながるとか、環境が整っているというところで、全体的な施策としてしっかり進めていくというところで数値化が難しいということで、このような形にさせていただいております。取組の内容としましては、これまでの主な取組の5番であったり、今後の取組の方向性の4番で、こういった研修の充実であったり、受入れの体制を充実させていくというところの部分で、私どもの取組に対して実施を進めてきたという形で評価をさせていただきました。</p>

		<p>実際に受入れのお子様が増えていることを何というわけではないのですが、御理解いただければと思っています。</p> <p>運営指導につきましては、そもそも指導したという結果について公表していないというものが多くて、数値としてこういったところでお示しするというのがそもそも難しいという面がございます。ただ、事案によっては公表するようなことも当然ありますので、そういったところを含めまして推進というようなお示しの仕方にはなっておりますけれども、必要な指導を事案ごとに進めていくという考え方で実施しております。</p> <p>恐らく備考のところコメントなりなんなりが入ってもいいのかなという気はしました。実施、推進だと少し分かりづらいでしょうか。</p> <p>確かに記載のところそのような表記を工夫するというのはあると思いますので、今後参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>今の森委員の質問で、7番と22番で、上のほうは推進となっているのに、22は実施になっています。この違いはないと思います。恐らくこれはルールがあるわけではないと思います。6年度は目標値が推進になっていますので、そういう意味では、達成しているのであれば、表記の問題だけですけれども、やっているのであれば、6年度は推進という形に表記を合わせたほうが正しいかと思います。ここでいう実施だから何か足りていないのかとか、推進だからプラスだったという意図は、所管のほうでつけたところで意図はないと思います。</p> <p>ここについてですが、もともとの目標は推進という記載があり、本部会では3つの事業があります。これまでは、実施ということで、実績という表現で記載しているかと思います。そのため、部会の担当する指標の中で不整合が生じていますので、確認させていただきたいと思います。全体としては、推進することを目標に掲げた事業について、実際したのかしていないのか、実施したのであれば実施という書き方かと思いますが、そこは確認させていただき、適切な表現にさせていただきたいと思います。</p> <p>よろしく申し上げます。</p> <p>様々ご報告いただきありがとうございます。私からは、13番の就職面接会及び保育所見学会事業についてのB評価というところですが、</p>
	事務局	
	石井部会長	
	事務局	
	事務局	
	事務局	
	石井部会長 大澤委員	

	<p>石井部会長 事務局</p>	<p>今、人材が大変不足している中で、去年よりも多く集まっているだけでもすばらしいなと思いつつ、ただ、今のやり方では多分これ以上は上がらないのではないかなというようなことを思ったりもしております。横浜市さんとしての人材バンクとか、それからプラットフォームとか、何か新しい方法を考えていかないとこの数値は上がっていかない、頑張っていらっしゃるけれども、なかなか上がっていかないのかなと思いました。</p> <p>なるほど。だから、多分Bでいいのですよね、評価としてはB。</p> <p>お話にございましたとおり、やはり従前どおりのやり方をしているも、そもそも養成校への入学者数が押しなべて全国的に減ってきているという状況がございますので、そういったところは、今までと同じようなやり方をしているだけでは来場者を増やすことはできないと思います。そこで、いろいろな方策というのは考えて毎年工夫は重ねているのですけれども、例えば、今お話にございました保育士・保育所支援センターのように、無料で御紹介をしてマッチングするような仕組みがございますけれど、これは神奈川県の場合、神奈川県と横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市の5県市で県社協のほうに一括して運営を委託するようなやり方をしていますが、そこでもやっぱり相談者数ですとかマッチングの数が横ばいで、なかなか増えていかないという現状がありますので、今年度の一つの工夫としては、潜在保育士の皆さんが、いきなり就職して実務としての園で働く前に、見学をされたい園があればお受けしましょうということで、園側にも協力してもらったような採用、定着に結びつくような取組をしたり、あるいは、保保センターを通じて就職をされた方については、奨励金の5万円のお金をお渡しするとかということのインセンティブ的なところも含めて取り組んではおります。</p> <p>あとは、地道に取組をしている中では、市内、県内の養成校との連携というのはもともと密にやっているのですが、県外でも、近隣の首都圏や、あるいは長野県とか、それから静岡県から首都圏のほうを目指して就職する方もいらっしゃるので、そういったところの御案内を増やしていくとか、いろいろと方策を考えながら取り組んでまいりたいと思います。</p>
	<p>大澤委員</p>	<p>ありがとうございました。本当に今全国で保育者の取り合いになっているので、なかなか難しいところだろうと思いますが、潜在保育者をいかに掘り起こしていくのかというようなところもぜひ力を入れていただけると、現場にいる先生たちの日々が助かるなというふうに思っております。よろしく願いいたします。</p>
	<p>斉田委員</p>	<p>8ページの14番のコンサルタント派遣なのでございますけれども、令和5年</p>

	<p>石井部会長</p> <p>稲田委員</p> <p>石井部会長</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p>	<p>と6年を比べるとがたんと落ちているのですね。先ほど一巡したからという御説明があったのですけれども、ここをどのように捉えているのかを教えてください。</p> <p>一巡したのは巡回のほうで、これはコンサルなので、多分人が集まらない園に行く事業のほうだと思うのですけれども、要は周知が十分ではなかったという書き方をしているのだけれども、でも、実質数が5年、6年で急落しているのはどうしてですかということかなと思いますけれども、お願いします。</p> <p>14番が一巡とおっしゃっていませんでしたっけ。</p> <p>一巡がこれ、本当ですか。それも確認でお願いします。</p> <p>同じ事業をやっているのですが、実績自体がまず伸び悩んでしまったことの理由の一つとして、やはり周知不足みたいなものがあつたかと思えます。数値としては、昨年度が保育士を確保できなかったがために、受入れ枠を閉じてしまったという園が69園ございました。同じ調査を今年度かけたときに、やっぱり66園で、合計で181人の保育士が不足していたという結果が出ています。ですので、保育士を確保したいというその状況をお持ちの園が増えたり、減ったりしていないという傾向がありますので、そこを何とか周知をもっと強化してやっていきたいと思えます。</p> <p>もともとコンサルタントの条件としては、まず、保育士または幼稚園教諭の資格を有する、あるいは保育所等に現に従事したり、過去に従事した経験があるという人をコンサルタントに充ててくださいというのが条件の1つ目、2つ目としては、公認会計士、税理士、中小企業診断士、もしくは社会保険労務士の資格を有する、または保育所等を含む福祉施設事業所に対するコンサルティングの実績があるということで、この要件自体が前から変わっていないのですけれども、こういったいろいろな資格を持った経験のあるコンサルタントが受けられますということをもっとしっかりと施設側に伝えていかなければいけないのだと思っています。</p> <p>そして、直近の値で申し上げますと、4月当初にコンサルタント派遣事業自体の周知を強化させていただいた結果としては、まだ年度前半ですけれども、今年度の実績としては10施設からお申出があつて、コンサルタント事業をやっておりますので、こういったことを重ねて、目標値としては年間30施設ということで、先ほど申し上げました数値でいうと、昨年度は69施設、今年度は66施設で保育士確保がなかなかできなかったというところがありますので、30施設に近づけられるように、これからも取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>一巡した、しないとかというのはここの話ですか。</p>
--	---	---

事務局	事務局	<p>それ自体は、もちろん複数年にわたってコンサルタントを同じ園が受けてもしていますけれども、その部分は担当としての一つの想定というか、見立てみたいなのでも報告をさせていただいた部分なので、本当に一巡してもうニーズがなくなったということではないかと思っていますが、理由の一つであるのではないかと考えています。</p> <p>一巡の意味が。</p> <p>一巡というか、この事業は平成30年から始まっていて、課題を抱えている園というのは多分そんなに入れ替わりがあるわけではないとなると、そうすると、1回例えば令和元年に会計の関係で会計士さんにアドバイスをもらったとします。そうすると、翌年なりその次の年とかで同じような課題が出たときに、もう1回このコンサルを受けても、結局同じアドバイスをされるだけなので、だったら使わない。要は一巡といえますか、1回受けた方が同じ理由でまたコンサルを受けるのであればあまり意味がないと感じてしまって申込みが来ないということがあろうと思っています。そのときに、今事務局からあったとおり、違う角度で、会計士だけではなくて別の角度からのアドバイスも受けられるということの周知が足りないと、結局、もう1回頼んだって同じことを言われるだけでしょうということでもエントリーが減ったといった要因があるのではないかと考えていますので、そういう意味では、いろんなジャンル、いろんな角度からアドバイスを受けられますよということの周知が必要かなと思っています。</p>
石井部会長	事務局	<p>一巡が分かっているようで分かっていないのですけれども、人が集まらない組織は結構根深いような気がして、内容かもしれないし、人間関係かもしれない、もらえるべきものが搾取されていたりするかもしれないし、いろいろな面があるので、多分ここに行く人は相当難しいお仕事だろうなとは思っていますけれども、でも園としては、改善が見られたりとか、つまり、1年でどうこうという問題でもないのかなと。数年単位の関わりが必要なのかなと思うので、そういうところも含めて、減ったら減ったなりに、次にどうするかというのは、内容のところは、派遣内容とかコンサルタントの問題かもしれないし、分かっていないやつが来たといったら多分二度と使わないと思うし、そんなことを考えたほうがいいのではないかなというのは今お話を聞いていて思いました。</p>
石井部会長	稲田委員	<p>これは予算が190万なのですね。30施設で190万というと、1施設6万とか7万とか。もちろんこれは宣伝広告とかも入っているのだと思うのですが、それで対応できるのかなというのが、価格感と抱えている問題というか、やらなければいけないことの重さのアンバランスをちょっと感じたのですけれども、そのあたりはどうなのですか。</p>

	事務局	<p>予算規模的には、特に少ないからこれだけの数値だというふうには考えておりませんのと、あとは、1園当たり3回まで同じ年度でコンサルタントを受けることができるのですが、園によっては、1回でもう受けた内容を踏まえて改善に取り組めるというような判断をされた園は、1回限りでの相談でその年度は終わるとかいろいろなパターンがありまして、その中で大体の相場ということで、1園当たりの単価を決めて取り組んでいるようなところになります。</p>
	稲田委員	<p>ありがとうございます。私もコンサルタント的なことの端くれとしては、レポートしてもらえないというのは、コンサルタント側にも何か課題があるのかもしれないと感じたりもしていて、一巡はなかなかしないような気がします。超える課題はまさに根深いものだと思いますし、1つ潰すと違う問題が目当たるものだと思いますから、あまり減っていくことは人気がないというか、何かミスマッチが起こっている感じがするのですが、そこら辺はアンケートとかは取ったりしているのですか。</p>
	事務局	<p>アンケートは実施しておりまして、聞き方としては、期待を上回る効果があったか、2つ目としてはほぼ期待どおりであったか、3番としてはやや物足りなかった、4番目として期待したほどの効果はなかった、5、期待外れだったという選択肢でお伺いしているのですが、おおむね7割ぐらいの園の評価としては、期待以上、期待どおりであったというところですので、効果的なものとか、園が受けた感覚的なものとしてはそれなりの効果があったという評価を受けていると考えております。</p>
	稲田委員	<p>そうであればレポートしそうだという気がするのですが、そのあたりはどうしてそうなってしまっているのかの仮説だと思いますけれども、何かあったりしますか。</p>
	事務局	<p>繰り返しになりますけれども、やはり繰り返し受けていただく必要もあると思うのですが、そのあたりが、先ほど話がありましたとおり多方面からの観点でいろいろな検証もできますというようなことをもっとお伝えしていかなければいけない部分かなと思いますのと、あとは個別に保育園の運営のことで、特に保育士確保のことで個別に直接御相談を受けるようなこともありますので、そういったところでは必ずこの事業自体もしっかりとお伝えして、利用が進むように取り組んでいければと思っております。</p>
	石井部会長	<p>例えば保育の中身が受け入れられないみたいな園だったりすると、なかなかそれを改善するのは1年では絶対無理なんです。だから、2年、3年やって、何となく今風の保育に変わってくるなというふうな感じになってくる。それは園長だけが分かっていたらいいという話</p>

		<p>ではなくて、働いている人みんなが共通理解を持っていかないと難しいのですよね。</p> <p>これは会計士さんとかがコンサルをやって片づくような問題では絶対なくて、特に人間関係をよくするためにはとか、あと保育内容をよくするためにはとか、給与をどうやって捻出して、どう払っていったら、どういうふうなところに予算をかけていくかみたいなのところはもしかしたら会計士関係の方で、例えば人件費比率が低過ぎますよとかそんなことは分かると思うのですけれども、なかなかそうはうまくいかないから、結構年数がかかるのだろうなと思ったときに、20施設ぐらいだったら直接聞いたほうが、つまりこの中で継続していないところに何でやめたんですかみたいなのは、今後の参考のためにお聞かせくださいみたいなことは十分できるのではないかな。アンケートを取るレベルの規模感ではないのではないかなと僕は思いました。なので、おやめになるとか、1回でやめてしまうみたいなことがさっきありましたけれども、直接聞きに行ったらいかかかなと思ったのですけれども。</p> <p>御助言ありがとうございます。お話にありましたとおり、利用が止まってしまった園については、こちらのほうからも声をかけて追いかけて、状態がどうなのかというところを含めてなるべく複数年でリカバリーしていただけるように取り組んでいければと思いますので、今様々ないただいた御助言を踏まえて、もう少し取組をしていきたいと思っています。</p> <p>お願いいたします。</p> <p>5ページの4番の、ごめんなさい、細かいことを言うのですけれども、「保育・教育施設等に対する」というので始まっていて、一番最後のところに「保育園をサポートし、保育の質向上に取り組みました」とあるのですけれども、保育所等にしてもらうのか、保育・教育施設にしてもらうのか、裏面の6ページの3番のところには対象園と出ているのですよね。それにするのか、統一してもらったらいののかなというのを御検討いただきたいというのが1点と、6ページの1番の2行目真ん中に「既存施設の活用や」というのを一番最初に入れていただいたというのは、これまで私がこの会議で発言させてもらっていた意味があったのかなと思うと大変うれしく思っています。</p> <p>今の御指摘のところは表記の統一という部分と、あとは事業について少し御意見をいただいたという認識ですけれども、5ページの4番については、実は前段と後段で違う事業でありますので、巡回訪問に関しては保育・教育施設等ということで、認可保育所のほかに地域型だったり、幼保連携型認定こども園であったり、地域型保育園という</p>
事務局	事務局	
石井部会長 清水委員	石井部会長 清水委員	
事務局	事務局	

山瀬委員

ようなものも含んでおりますので、「等」という表記になっているところですが、保育所等保育改善サポート事業に関しては、現在のところ施設としては認可保育所に現状ではまだ限られているというところですので、すみません、「保育園を」という書き方になってございます。今後の事業の拡大、継続等においては他類型に関しても検討中というような状況でございますので、それを踏まえて表記のほうは随時書き換えていきたいと思っております。

計画策定当時がコロナ前で、そんな中で、コロナを通してニーズだとか生活の形だとかがどんどん変わっていく形の中で評価するのはすごく難しいことだなと思いつながらお話を伺っておりました。その中で、さっきの清水先生のお話もあったのですが、待機児童ゼロを今回継続というところで、待機児童をゼロにしていくという中で、幼稚園の預かり保育を活用しながらという部分も結構寄与としては大きかったのではないのかなと思います。例えば8ページの11の項目の幼稚園の預かり利用の延べ利用数は、進捗状況がAで、令和2年度以降の数字を見ても結構コンスタントに伸びてきているという枠なのかなと思います。

今回、平成27年からの子ども・子育て支援の新制度で、全てのこどもが質の高い幼児教育・保育を受けられる、そして幼稚園とか保育所とかこども園とか、様々なそれぞれのこどもと家庭のニーズに応じて選択ができるというところでいくと、保育所もちろん大切な選択肢なので、そういう多様な保育とかそれ以外の選択肢で、幼稚園もかなり預かり保育だとか横浜市型の預かり保育も拡大して、選択肢として幼児教育・保育を支えて、こどもの育ちを支えてくれているというところなのに、さっきのお話の中で、幼稚園、保育所等と書いてあっても、現実としては保育所への支援制度や、例えば8ページの12番、保育士宿舎借上支援事業とかも、これも最初に制度ができた頃はやっぱり待機児童を解消するために、保育所の保育士をどう確保するかというところから制度趣旨としては始まっていて、結構な年数がたってくる中で、保育所の保育士さん、結局パイとしては同じものを奪い合っているものではないですか。大澤先生の話にもあったように、数は減っているし、新規で入ってくる資格取得する方は幼保で大体取られて数が減ってきているという中であって、やはり幼稚園の人材確保だとか、様々な保育の形態を支える人材をちゃんと確保できるということもそろそろ主として考えていくというのも1つあると思います。

さっきのコンサルタントとかも、保育士の採用となっていますけれども、これはそうすると、今までの流れでいくと、利用できるのは保

		<p>育所が中心になってくるのかなと思いますけれども、幼稚園さんでも大変なところというのはおありかと思しますので、伸び悩むという言い方があれなのかもしれないですけれども、利用が一巡したのか何かは分かりませんが、であればという言い方もちょっと変かもしれないですが、利用できる対象を少し広げていくというのが、こども・子育て支援の制度を実現していくという趣旨にもやっぱり沿っていくのかなと思って、本当にどんどん社会の状況が変わって、働き方も変わっているので、単純にもう保育所で長時間預かってほしい、土日みたいな働き方だとか預け方というよりは、本当に働き方も多様で、家族で過ごす時間もしっかりと確保したい、その上で、どういうこどもと家庭のニーズで選択するのかという選択を支えていくというところを考えると、利用できる施設を特定するような形での展開というよりは、もう少し全体での質の向上というところを考えていく方向というのも少しありなのかなと、いろいろな先生方のお話を聞いていて思いました。</p> <p>これまでの主な取組の3番と、それから、No.8の接続期のカリキュラムというところなのですが、今まさにこれから展開されていくというようなところで、横浜市さんはいつも先駆けていろいろなことを展開されているので、冊子も架け橋プログラム編を刊行したということで、すばらしいなと思っております。今ちょうど刊行されたというようなところなのですが、これがどれくらい活用されていくのかというようなところ、この後、フィードバックをどういうふうにとっていくのか、そして改善していくのかというところが課題だと思って、また学ばせていただきたいなと思っております。評価がBというようなところについています。</p> <p>この活用をどういうふうにしていくかについては、幼稚園や保育園という園では、かなりこのことが周知されていて、やらなくてはねというようなところが広まってきているというように思うのですが、小学校へのアプローチが多分かなり少ないのではないかと、小学校の反応がなかなか難しいというような課題もあるのではないだろうかというように思うと、今後、私の願いなのですが、小学校へのアプローチをいかにするかというように含めながら、双方でどのような成果が得られたかということを検証して、このことを積み重ねていって全国に発信していただけたらなと願っています。</p> <p>まずは幼稚園の人材確保というところでお話をさせていただきたいと思っております。山瀬委員、ありがとうございます。</p> <p>保育士宿舎借上支援事業は、幼稚園は対象外ですけど、横浜市でも保育士宿舎借上支援事業の実施後、令和2年度から新たな事業とし</p>
	大澤委員	
		事務局

	事務局	<p>て独自に幼稚園教諭の住居手当の支援の施策を行っています。また、人材確保につきましても、幼稚園団体と保育園団体と一緒に頑張って横浜Baaang!!の取組など一緒に取り組んでいるところです。幼稚園でもう既に8割の園が預かり保育ということで、働いているおきさんも受け入れることができることが横浜の大きな特徴だと思っておりますので、人材の確保につきましても一緒にやっております。</p> <p>御質問ありがとうございます。今の接続期のところでお答えさせていただきます。</p> <p>様々なリーフレット、成果物の冊子を作りまして、そのところの活用というところなのですが、こちらに関しましては、横浜市内の幼児教育施設、保育園、幼稚園、そして認定こども園、認可外等のところにも配布いたしまして、あと小学校もちろん配布してございます。義務教育学校にも配布いたしまして、広く周知を今啓発しているところでございます。</p> <p>御指摘のように、園のほうも随分周知がなされてきているということもございまして、課題になっているのは小学校ではないかなというところも本当にごもともと受け止めております。そこを踏まえまして、本日もちょうど今日、上大岡のウィリング横浜で教育連携研修分科会というところで、小学校、それから幼稚園、保育園が集まりまして、5領域あるところプラス、やはり喫緊の課題である特別支援教育の部会、6部会を設けまして、それぞれの実践提案と、私たちもそこを下支えする提案の前の助言をさせていただき、さらなる啓発が図れるようにというところは、小学校のほうも今日もかなりの参加もありまして、地道なそういう努力を重ねながら、推進のほうをこれからも続けてまいりたいと思っております。</p>
	大澤委員	<p>基本的なところなのですが、予算の一部というのが、No.8の予算額はすごい予算がついていると思ったら、この一部だということで、素朴な質問です。</p>
	事務局	<p>実は幼保小連携の架け橋プログラムにつきましては、令和4年から6年までの昨年までの3か年、文部科学省の研究の指定を受けまして、補助をいただいております。また、今年度から3か年も文科省の研究の指定を継続しておりまして、昨年度までの部分では、そういう部分での補助もあったということで、一部となっている状況でございます。</p>
	森委員	<p>今の御質問の続きになってしまうのですが、令和5年度と6年度で54.3%で数字が一緒というのは、やっているところが一緒ということですか。実施をしたところに関しては翌年もやっているということなのですかね。</p>

事務局		<p>こちらにつきましては全く同じというところではなく、偶然この数字になってしまったのですけれども、一進一退であったり、また、園の体制も、園長先生が替わられましたり、推進者の異動等もあったり、小学校も同様にいうところで、入替えはございますが、本当に同じぐらいの指標になってしまったということが実態でございます。</p>
森委員		<p>分かりました。では、今年はやったけれども、次の年はやらないみたいの実施のところもあるということですね。</p>
事務局		<p>そうです、そのように受け止めております。あとはまた、数値の私たちの課題としまして、アンケートを毎年取っているのですが、やはりハードルを高く捉えてしまって、実際行っているのに、まだそこまではないよねというので、謙虚さといいますか、そういうところの園や小学校もあると散見しておりますので、そのあたりも強くよく周知をしていきたいと思っております。</p>
森委員		<p>ありがとうございます。</p>
石井部会長		<p>指標は厳しいのですよ。交流活動は複数回、連携活動複数回とかとなっていると、1回だけだとなみたいなのは当然あるかなと。</p>
清水委員		<p>先々週だったと思うのですけれども、横浜市の幼保小の親会議みたいなのに私も参加させていただいたときに、浸透していくというのはすごく難しいですよと、大澤委員のおっしゃるとおりだなと思うんですけれども、その話が出たときの回答として、今は校長先生1人がこういう研修会に出て、それをやりたいと言ってやるだけではなくて、そこから組織立って副校長先生とか児童専任の先生たちにも理解を求めて、校長先生がいなくなる時には、組織で小学校のこどもの捉え方みたいなのを改めていきたいと思いますという取組をしていますなんていうお話もありました。幼稚園もうかうかしてられないぞというのを、幼稚園団体としてもやっぱり考えていかなければいけないところだなと思っています。</p>
石井部会長		<p>今までの延長保育の話の論法でいくと、恐らく9ページの16番、休日一時保育のところも、利用ニーズがなかったということは、いろいろ達成できなかったではない考え方、捉え方ができるかなというのがこれも当てはまるのかと思うので、Cとするのか、Bにするのかというのは検討いただければと思います。</p> <p>備考のところコメントが入っている項目と入っていない項目があって、別にA、Aだとして入ってなくてもよいと思うのですけれども、BとかCとかのところは一言ずつでも入れたほうがいいかなというのは実感です。例えば17番、19番あたりは、実際はBなわけですが、その辺、1行でも2行でも入っていると少し違うのかなと思いました。</p> <p>23番の食物アレルギーの研修の話ですが、これはBというのは厳し</p>

	稲田委員	<p>いと思って、オンラインをやっている、結構2か月も空いているので、対面型4回が想定だったとはいえ、オンラインも活用しながら、結構長々と見せてみたいなのも含めて、そういうのを勘案してもいいのかなという感じがしました。</p> <p>今回は大体2期のというところで、ある意味過去のものと同比較がしやすく、すごく検討が深まったなという感じがするのですが、来年からは違う計画になるというところで、この表をどうされるのかなというところで、23項目ありますけれども、これは変わるのだと思うので、これをどういうふうに見せていくおつもりなのか、予定みたいなのももし分かれば教えていただけますか。</p>
	事務局	<p>計画が2期と3期で変わって、計画の記載内容も事業内容も変わるので、それを突合するといいたいでしょうか、一覽でこれを引き継いで見せるというのはなかなか難しいかと思えますけれども、継続している事業については当然そういった課題を踏まえながらどう変えたのかというところは御説明できると思えますし、ある意味、時代のニーズとともに、策定当時は必要だった事業が今はもう必要なくなり、逆に新しい課題が出てきて追加しているものもあります。ここで感じた課題ですとか改善事項等を踏まえて第3期をつくっているという立てつけにはしてあると思えますので、その中で第3期の点検・評価をするときに、2期のときにこういう課題があったのでこうしましたというような御説明ができるように考えていきたいと思えます。</p>
	石井部会長	<p>ほかにかがでしょうか。</p> <p>これは今から決を採るのですが、最初に事務局に伺いたいのですが、文言を修正するとさっきおっしゃられていたので、事務局の示したとおりとはいかない決の採り方になると思うのですが、修正等をしていただいて、次回引き続き検討というまででもないかと思うのですが、どういうふうに、皆さんに回覧していただくのか、部会長預かりとかの形でとするのか、その辺は何かありますか。</p>
	事務局	<p>昨年度も点検・評価はこちらの部会で毎年かけさせていただいて、いろんな御意見をいただいた中で、評価の内容で修正すべきものがあったときには、本日の意見を踏まえて修正させていただいております。それを踏まえて総会のほうに上げていただいて、そこで最終的には決議を採っていただくという形になるので、本日いただいた御意見は、我々のほうで修正できるところは修正させていただきたいと思っております。</p>
	石井部会長	<p>総会にかかるということで分かりました。では、事務局にて今回必要な修正をしていただき、総会に上げていただくということで、皆様よろしいでしょうか。</p>

		<p>(異議なし)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、続きまして、報告(2)(仮称)よこはま☆一時預かり充実パッケージの実施について事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>資料に沿って説明。</p> <p>ありがとうございます。御質問、御意見等はございますでしょうか。</p> <p>どう捉えたらいいのかなとずっと思って伺っていたのです。予約が取れないという声がどのぐらい来ていたのかなと。370万人いる都市で、どのぐらいだったら事業として動いていくべきかと。そのときにこどもの気持ち、こどもが楽しく遊ぶと書いていますけれども、お友達とかと一緒にいたら、初めての場所とか、行ったことがないところで、4、5歳とかなら、結構対人関係が上手な子は楽しく遊べるかもなど思えるのですけれども、それより小さい子たちはどんな気持ちで預かれるのかなと、そこまでニーズがあるという判断の根拠みたいなものを知りたくなってしまうなと思って聞いていました。</p> <p>なぜこの発言をするかといったら、2弾、3弾もあるよというお話があったからです。今後、本当に困っている家庭や保護者にすごく助かる事業だと思います。ただ、それがみんな誰でもどうぞ、当たり前となっていくと、そこで割を食うのはこどもと、量から質となっていくというものの整合性がどうなのかなというのは思っていました。</p> <p>さっきの保育所での一時保育の評価がBだったのにもかかわらずということですね。いかがでしょうか。</p> <p>実際に御意見を伺う中では、預けたいけれども、預けられない声があるという、皆さんも御承知のとおりかと思っております。それから、やはり預けるということ自体の経験がなくて、それに対しての抵抗を感じてしまっているというような御意見もいただいているという中で、そういった方々への心理的なハードルを引き下げてということが1つ。あるいは、既存の一時預かりの事業の受入れ枠を拡大して、使いたいと思うときに利用できるようにといった2つのアプローチを今回は目指しているというようなところで。</p> <p>モデル事業という形ですので、また実施の状況を踏まえてということはもちろんありますけれども、よりそういった利用のニーズを持った方に対して利用しやすくすること、それから、最初に委員がおっしゃられたように、預けられるこどもも、いきなりそういった場所に例えば放り出されるというような形で不安を感じるというようなことも当然起こり得るというところでもありますので、そういったところも少し遊びのプログラムみたいなものを併用しながら、お子さん</p>
	石井部会長	
	事務局 石井部会長 清水委員	
	石井部会長	
	事務局	
	事務局	

	尾木委員	<p>自体も楽しく過ごせる場をつくっていきたいということで考えております。</p> <p>当日申込みの当日利用なのですが、一時預かりにやっぱり慣れていない子どもが多いので、事前面談というのがすごく大事だと思っているのですが、当日利用の場合に、誰でもかんでも受け入れるのではなくて、事前面談をきちんとする時間的余裕があるとか、あるいはそれももうどうしようもない緊急一時みみたいな形なのか、その辺は当日を受け入れる場合の何か条件づけというのは決めていらっしゃるのでしょうか。</p>
	事務局	<p>当日の急な受入れに関しても、基本的には手続は同じような形を踏むということで考えておりますので、大体の方は電話をされてくるわけなので、電話でまずある程度の情報はお聞きするというようなこと、例えば土日祝預かりでは、グーグルフォームみたいなものを活用して、別途お子さんの状況とかの情報をお預かりする前に教えていただくというようなことを想定しているわけなのですが、実際に連れてきていただくまでにそういったやり取りをある程度密にやることによって、従前の預ける日までの予約の方のやり取りとほぼ同様の形で実施をするということで考えております。</p>
	尾木委員 石井部会長	<p>ちょっと心配です。</p> <p>心配ですね。特に当日面談、当日預かりの瀬谷駅前保育園は令和7年4月開園じゃないですか。まだ3、4か月の保育の経験、しかも本部が宮城と山形、東北のほうにある法人で、心配はあるかなと思ったのですが、いかがでしょうか。</p>
	事務局	<p>いざというときの一時預かりのところの今回瀬谷駅前保育園だけは当日受入れ可という形になっています。もともとの事業の形態としては前日までの予約を受けてくださいということを公募でかけさせていただいて、当日は事業者としてできるところはできるという形で手を挙げていただいています。多くのところは、事前の面談とか利用がある方は当日でもいいですよということと、瀬谷駅前のところは、私たちはできるという形で手を挙げていただいているので、受入れ自体はこれからになりますので、その状況を見ながら、先ほど当日の場合の手順だとか、その辺は同じように伝えていきますので、急にもう連れてきましたがスタートではない、まずは電話をして、そこで聞き取った上でお子さんを見ながら、状況によってはお断りする場合がありますというのを書いていますので、それは何でもかんでも断ってくださいということではないのですけれども、やはり安全に受け入れていただくというのが第一と考えていますので、そこは事業者ともコミュニケーションを取りながら進めていきたいと思っています。</p>

	尾木委員	<p>やはり利用者の方々に、こういう事業が始まったということと、できるだけ事前に面談を受けましょうというような周知を先にさせていただくことが必要かなと思います。そうしたら、本当にいざ当日になって必要になったときも安心して利用できますという周知が大事かなと思いました。</p>
	石井部会長	<p>障害のある子とか、アレルギーも含めて、結局、いいのですよね。そういう場合に当日面談で対応できるのかなと思ったのですけれども。</p>
	尾木委員	<p>できない場合があります。</p>
	石井部会長 事務局	<p>それはできない場合になってしまうのですね。 そこは一旦の線引きが、これはできる、これはできないというのを、本当に言葉で表すのは難しいかなと思っていますので、アレルギーがあるなしもそうですし、配慮があるというところもあるかと思しますので、そこは個別の判断という形でこういう記載にさせていただいています。障害のある方の受け入れた場合の加算等は事業の中で設けていますので、通常の利用に関してはそこへの基本的な受入れはやってくださいという形になっています。</p>
	大澤委員	<p>1点質問です。利用時間についてなんですが、国のこども誰でも通園制度はゼロ歳から6か月、3歳未満の利用の場合、月10時間程度というようなことがあるのですが、このモデル事業の中では、月の上限、それから日の時間数の上限というのはあるのでしょうか。</p>
	事務局	<p>先に、いざというときの一時預かりについての上限ですけれども、1日の上限は設定をしておりません。施設によって8時間開所しているところ、11時間開所しているところ、開所の時間は決まっていますけれども、利用の上限を設けておりません。月の利用上限としては40時間ということで設定をしています。あくまでもいざというときの一時預かりというところでの上限の設定ですので、1か月ずっと続くわけではないというところを想定して、1日8時間、1週間程度状態が続いたとしても、上限としてはそこぐらいだろうということで40時間としております。</p>
	事務局	<p>続きまして、市庁舎内土日祝預かりなのですが、こちらのほうは1日の利用時間上限はなく、月で48時間ということで想定を上限にしております。それから、24時間いつでもあずかり保育に関しては、従来の制度なのですが、連続して72時間以上の利用は不可というような規定がございますので、それにかからないようにというような形となります。短時間預かり等については今後検討していくというような状況でございます。</p>
	石井部会長	<p>土日の預かりをした場合に、その子が行っている園があれば、連絡</p>

	事務局	<p>等というのは通知とかはされるのですか。どこかの会議で、平日ずっと保育園に来ていて、土日まで預けられて、それでまた平日。でもその情報が、平日、通常受入れをしている園には分からない、分かりにくいみたいな話が出ましたが、今のお話の続きでどうでしょうか。</p> <p>現状、モデル事業の中では、例えば在園児の利用があった場合に、在園の園と情報を共有するかというところの仕組みについては、現状ないということです。ですが、そういった御懸念の部分は確かにあるかと思うので、母子支援等どういった支援が必要かというようなことはまた別途課題であると思っております。</p>
	稲田委員	<p>ありがとうございます。モデル事業なのでということもあると思うのですが、親のゆとりの問題と、こどもの幸福みたいなところで分けて考えないといけないというのを今の議論を踏まえても感じていました、こどもを預けることの罪悪感がなくなるという意味での話もありましたが、それが100%いいわけではないのかなというふうにも思います。何が言いたいかというと、モデル事業ということで、いろんなところを今後に向けて検討していくのだと思うのですが、そのときに、なかなかこどもの幸福みたいなところは、特にゼロ歳とか2歳とかは測りにくさはすごくあると思うのですが、まずはそこにチャレンジしていただけたらなと思っておりますし、例えば最初のほうだと、ならし保育とかだと、電話がかかってきちゃうではないですか。こどもが泣いていると電話がかかってきて、迎えに来てくださいとかという話はよくあると思うのですが、そういうのとかもぜひやるように指導してもらおう。中断とかはあり得ますよみたいな話もしてもらえると、こどもにとって最悪のことが減るのかなと思いました。</p>
	石井部会長	<p>ちなみに、「えんさがしサポート★よこはま保育」に瀬谷駅前保育園は検索しても出てこないなので、上げるようにお伝えいただければいいかなと思います。</p> <p>それでは、公開案件は以上になります。</p>